

# 授業科目 相談援助論Ⅰ

【担当教員名】  鈴木 昭		対象学年	2	対象学科	社会
		開講時期	前期	必修選択	必修
		単位数	2	時間数	30
【カリキュラムポリシーとの関連性】					
知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	
◎	◎	◎	◎	○	
【概要・一般目標：GI0】 社会福祉士を含むソーシャルワーカーの役割を学び、ソーシャルワークの意義と機能について理解する。 相談援助を中心としたソーシャルワーク実践の概念や理念、範囲などについて理解する。 これらを通じて社会福祉士としての実践に必要な基本的な視点、考え方など実践基盤の習得を目指していく。					
【学習目標】 1 社会福祉士、精神保健福祉士などソーシャルワーカーの役割と専門性、その意義を理解する。 2 相談援助の概念や範囲、理念を学び、ソーシャルワークの基本視点、基本姿勢を理解する。 3 相談援助およびソーシャルワークの基本概念を理解する。					
回数	授業計画・学習の主題	SBO 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員		
1	オリエンテーション		社会福祉専門職とその仕事について考える		
2	社会福祉士とソーシャルワーカー		第1章 社会福祉士の役割と意義		
3	生活問題とソーシャルワーク		第1章 現代社会と地域生活		
4	ソーシャルワークとは何か		第2章 ソーシャルワークの概念 ソーシャルワークの構成要素		
5	ソーシャルワーク実践の基礎知識		基礎的な方法と実践過程 資料		
6	ソーシャルワークの歴史 発生期		第3章 ソーシャルワークの源流		
7	ソーシャルワークの歴史 確立期		第3章 ソーシャルワークの基礎確立期		
8	ソーシャルワークの歴史 発展と展開		第4章 相談援助の形成過程		
9	ジェネラリスト・ソーシャルワーク		第4章 相談援助の形成過程		
10	ソーシャルワークの価値		第5章 ソーシャルワーカーと価値		
11	ソーシャルワーカーの倫理		第5章 ソーシャルワーク実践と価値		
12	ソーシャルワークと権利擁護		第5章 ソーシャルワーク実践と権利擁護		
13	ソーシャルワークの基本 視点と姿勢		第6章 クライアントの尊厳と自己決定 ノーマライゼーションと社会的包摂		
14	相談援助面接の基礎知識		資料配布		
15	まとめ		総括と振り返り 専門的視点と技術について考える		
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)		6 相談援助の基盤と専門職	社会福祉士養成講座編集委員会	中央法規	最新刊
参考書		ソーシャルワーク実践の基礎理論 改訂版	北島英治 渡部律子 他編	有斐閣	2010・2,000円＋税
その他の資料					
【評価方法】 定期試験 出席態度 レポートにより評価する		【履修上の留意点】 テキストを読んでから授業を受ける			